

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100343		
法人名	医療法人 寿仁会		
事業所名	グループホーム ファミージュ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮2丁目1-18-4階		
自己評価作成日	令和2年9月23日	評価結果市町村受理日	令和3年 2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100343-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームファミージュは、サービス付高齢者住宅ユートピア沖縄の施設内の4階にあります。建物内にクリニック絆があり、入居者様の急な状態変化や健康状態の相談が看護師やクリニックの先生へ直接相談する事ができます。同じ敷地内には、デイサービスや認可保育園もあり、定期的な交流会や各種イベントも一緒に行っています。 グループホームでのご入居者様が、住み慣れた、安心した環境で生活できるように、入居者様同士、職員同士が支え合い、助け合う生活を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設9年を経過し、近隣には公園や県立看護大学があり、落ち着いた環境にある。サービス付き高齢者住宅の施設の4階に設置されており、法人の通所介護や訪問介護、居宅介護支援、保育園、クリニックが併設されている。クリニックの医師が利用者のかかりつけ医として、看護師の応援も含めた医療連携体制が図られている。保育園児との交流やサービス付き高齢者住宅の入居者との「ゆんたく会」を行っている。利用者の自己決定を尊重し、法人の他事業所職員の見守りや声かけの協力も得ながら、理念である「互いに支え合う地域家族」の実践につなげている。併設の4か所の事業所と交流し、合同研修を実施し、相互に知見者として運営推進会議に参加している。例年家族は面会が多く、運営推進会議には家族が複数参加し、クリスマス会も多くの家族でにぎわっている。コロナ禍で行事やボランティア活動、外出支援、家族の面会を制限しているが、3階庭園でお茶会をしたり、ファーストフード店のドライブスルーを実施している。家族への動画配信も行い、ドライブで家族宅に行き、車の窓越しの家族との面会を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・スタッフルーム前に理念を掲示し、毎朝9時の申し送り前に職員全員で唱和している。個々のケアを振り返り、理念の意識づけを行っている。	開設当初からの理念について、今年3月に見直しを検討した結果、現在の理念を継続することになっている。毎朝職員と理念を唱和することで、意識づけや理念の共有に努めている。複合施設として、他の事業所職員の見守りや声かけ等の協力を得ることで、理念である「互いに支え合う地域家族」の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナウイルス感染予防につき、今年度は、各種イベント、交流は控えている。	コロナ禍で、行事やポイント制度を活用したボランティアの活動は中止となっている。複合施設内にある保育園児との交流やサービス付き高齢者住宅の入居者と「ゆんたく会」を行っている。他事業所との交流で、お相撲さんに会いに出かけたこともある。地域の花屋からは花の提供があり、地域ボランティアが毎月チラシで折ったゴミ箱を届けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域のボランティアの方に、認知症についての情報やパンフレットを提供したり、提供を受けたりして、情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催し、会議の中での意見交換時は、参加者の多くから意見や話がしやすいように行い、会議で出た意見は、職員ミーティングや申し送り時に情報共有し課題にあげている。	運営推進会議は年6回奇数月に開催され、利用者や家族、行政、地域代表、知見者が参加している。コロナ禍で3月は資料送付のみとなっており、5月、11月は職員のみで参加で開催している。活動状況や事故、外部評価結果等を報告し、身体拘束等の意見交換も行われている。議事録は丁寧に作成され、外部評価結果と一緒に公表されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・那覇市のグループホーム連絡会への参加を行い、情報交換や相談を行っている。 ・事故報告の際は、早急に電話連絡し、対応法についても相談、報告を行っている。	行政との連携として、市職員や地域包括支援センター職員が参加する運営推進会議や那覇市グループホーム連絡会において、情報交換や相談、事業所の状況を報告し、協力関係を築いている。行政からは制度改正等の研修案内があり、集団指導の説明会に毎年参加している。今年は那覇市の実地指導もあり、サービスの質の向上に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎月～2ヶ月に1回、職員内で身体拘束についての検討会を行い、ケア方法の見直しや今後の対応法の結果を運営推進会議の場で報告している。	身体的拘束等の適正化のための指針が作成され、職員研修を実施して職員への周知を図っている。職員検討会で身体拘束について話し合った結果は、身体拘束適正化委員会で報告し、議事録も作成されている。転倒の多い利用者への夜間低床ベッドの使用について、身体拘束と捉えるか、職員間で意見が分かれた。委員からは「拘束に当たらないのではないか」との意見があり、経過観察となっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・日頃のケアの中で、利用者様との関わり方で気になった事は、職員同士で意見交換している。毎月の身体拘束についての検討会の中で、日頃の対応で気になった事は議題にあげている。	那覇市高齢者虐待防止マニュアルを活用している。利用者への言葉づかいや対応、不適切なケアについて、その都度議題にあげ職員と話し合っている。例年、意識の変化を促すうで研修を推奨しているが、コロナ禍で外部研修が中止になっている。内部研修でも、虐待防止の研修の実績が確認できなかった。	虐待防止の定期的な研修を実施し、職員への周知や情報の共有を図り、虐待防止の徹底に努めることが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護の制度に関する資料は、いつでも手にとって見やすいように、スタッフルーム内に常備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居契約、退去の際の説明時は、時間をかけて説明し、その都度ご家族様からの疑問点や確認事項の有無は確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議や外部評価などを利用して、ご家族様からの要望や意見を聞き出すようにしている。第三者が入る事により、意見が出やすく、職員内でも共有しやすい。	利用者からの意見や要望は、日頃の関わりの中で聞いている。家族からは面会時や運営推進会議の参加時に意見等を聞く機会としている。コロナ禍で面会中止や制限が続く、家族からはオンラインで面会させてもらえないかとの要望があり、写真や動画を送り対応している。利用者3人と家族宅までドライブをし、家の前で、車の窓越しに面会してもらう等の支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の職員会議で、運営や業務に関する議題の募集を各職員に声掛けしている。提案がない場合は、日ごろの業務の中で見直しが必要な部分を職員から報告を個々に受けている。	職員ミーティングは月1回開催し、半数以上が参加している。急ぎの場合は臨時で話し合いを持っている。業務スケジュールの見直しやコロナ感染予防対策、看取りについて話し合っている。コロナ禍で運営推進会議は職員のみによる開催月もあり、法人の他事業所職員も参加し、意見交換をしている。活動内容、及びレク活動の情報交換や転倒予防の助言を得ている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・半年に1回、個々のスキルアップ目標を立ててもらい、目標達成に向け、実行内容を半年後に振り返っている。希望休みの受け入れ、有給休暇の取得、が全職員平等に受けられるようにしている。	法人の就業規則が整備され、労働条件を規定し、健康診断についても、昼勤は年1回、夜勤職員は年2回受診している。インフルエンザ予防接種は法人負担で接種し、ストレスチェックも年1回行われている。研修を推奨し、資格取得研修も勤務扱いとしている。職員に「ケアマネジャーの資格を取りたい」等の個人目標を立てさせ、年2回成果を確認する等、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体や、事業所内、施設内での勉強会の参加を行い、個々の抱えている課題を理解し、事業所外の研修に参加できるように、シフト調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣のグループホーム管理者と連携をとり、合同で勉強会を行っている。現在、新型コロナウイルス感染予防につき、休止中。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前より、本人様やご家族様とこまめに連絡をとり、自宅への訪問時はゆっくり時間をかけて実態調査を行っている。入居後も1日の中で声をかける機会を増やし、本人様の表情や言動を拾っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前から入居数か月間は、2～3日に1回は、電話連絡をして話す機会を多く持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事業所内のサービスだけでなく、ご家族様や、入居前に関わっていた友人とのつながりも支援内容に組み込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者様の気分にそぐわない時は、距離や時間を置いたり、入居者様同士で助け合っている時は、安全を確保しながら、職員が介入しすぎないように注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族様が施設に任せきりにならないように、こまめに連絡をとり、本人様に必要な生活物品の補充依頼や、面会できないときは、電話や手紙などの依頼をしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人様を囲む、ご家族様、友人や仕事時代から関係が続いていた人達との関係が途切れないように、事業所側から定期的に電話連絡し、本人様と会話して頂いている。	馴染みの人や場については、利用者や家族から把握している。利用者は地元で生活していた人が多く、馴染みの美容室や青果店に出かける人もいる。コロナ禍で外出や面会が制限されているが、関係が途切れないよう家族や友人等に電話で連絡を取るなど支援をしている。最近入居した利用者にはドライブで家に連れて行き、家族と面会できるよう配慮している。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・年齢が近い、故郷が近い、話の波長が合う入居者様同士を近くに案内し、コミュニケーションをとって頂いている。部屋が近い方が、案内したり、互いに支えあえるように協力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後の病院先で、本人様の状態変化の有無を確認し、入院先のケースワークとも連携をとり、入居先の情報共有を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定期的に、直接本人様と話をしたり、他の入居者様や職員との雑談の中で、本人様の言動や思いを拾っている。	利用者は全員意思表示が可能である。思いや意向は介護記録等に記載し、職員で情報を共有している。利用者の希望に応じて、新聞や絵本の読み聞かせを支援している。青春時代の映画を見たいという声に、シネマユートピアの月1回開催を実施している。慰霊の日に黙祷をしたいという利用者には戦争の記憶を話してもらい、複数の方が黙祷もしている。家族からは、来訪時や受診時に、利用者の思いや意向についての情報を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前から、ご家族様や関わっていたケアマネージャー、サービス事業所との責任者とこまめに連絡をとり、本人様の生活パターンや環境を理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の介護記録の記入と、変化があった時の観察ポイントの記入法を職員個々に周知している。必要時はカンファレンスにつなげている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・モニタリング期間に関わらず、本人様の状態に変化が生じた時、ケアする職員が疑問に感じた時は、その都度議題に挙げて、カンファレンスを行い、介護計画へつなげている。	家族面会時にサービス担当者会議を開き、必要に応じ主治医も参加して、本人や家族の意向を反映した介護計画を作成している。「外に出たい、自由な生活がしたい」という101歳になる利用者の意向が介護計画に記載されている。介護計画は年1回見直し、状態変化に応じて随時の見直しも行っている。小さな変化も見逃さないよう職員は常に利用者を観察し、課題が起きた場合はカンファレンスやミーティングを持ち、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録では、支援内容に偏りすぎず、本人様の言動や表情、ケアに対しての反応が記入できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人様の今までの生活歴や入居に至るまでのサービス内容が入居後も現状に合っているのか、振り返り、必要時は再開できるように調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近隣のお花屋さんや薬局の職員さんの力をお借りしながら、ご本人様の今できる事を楽しんで行えるようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前に診てもらっていたかかりつけ医を変更せず、入居後も継続して関わりを持っている。	利用者全員が施設2階のクリニックをかかりつけ医としている。他科受診は家族対応を基本とし、必要時には職員が受診支援を行っている。急変時には往診してもらっている。かかりつけの歯科医による訪問歯科診療を受診している利用者が1人いる。インフルエンザの予防接種や長寿健康診査(長寿健診)も受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々のケアの中での小さな変化を介護職員は管理者へ報告し管理者は情報をまとめて併設しているクリニックの看護師と主治医への相談、報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院後は、数日中に、入居者様に関する基本情報や事業所内での普段の状態を報告している。退院に向けて、必要な支援の有無、医療行為等の確認を病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期に向けた方針について、入居時と、ご本人様の状態変化が生じた時に、その都度ご家族様に説明し同意を得ている。	重度化や看取りに関する指針が整備され、入居時に利用者と家族に説明を行っている。看取りの実施については、主治医や管理者から家族へ説明を行い、家族の同意を得ている。かかりつけ医による往診や看護師とのオンコール体制がとられている。3月に看取りを実施し、職員は看取り介護を振り返り、「利用者との思い出」等を語り合うことを通してグリーフケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の対応マニュアルの整備、フローチャートを作成し、全職員に配布。実際に起きた時の疑問点は、職員ミーティングなどで情報共有している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災だけでなく、台風時の対応マニュアルを整備し、全職員に周知している。	「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」を整備している。「台風時対応・事前確認」には、非常用電源の確認、停電時の対処法などが明記されている。消防訓練実施計画書を消防署に提出し、6月に夜間想定避難訓練を1回実施している。備蓄は法人の厨房で3日分を確保している。	避難訓練は、消防法で年2回以上の実施が義務付けられている。年間計画に組み入れ、年2回以上の実施が望まれる。備蓄に関しては、利用者と職員の分を含む飲料水、食料など7日分が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者様との関係に馴れ合いすぎないように、言葉使いやコミュニケーション時の目線の合わせ方を日々のケアで意識しながら行っている。	各居室内にトイレが設置されており、排泄時には居室のドアを閉めて支援している。排泄で失敗した場合でも他の利用者に気づかれることなく、プライバシーを損ねない支援を行っている。個人情報保護方針、及び利用目的が玄関に掲示され、就業規則には守秘義務が記載されている。個人ファイルはカギ付きのキャビネットで保管している。リビングには一人で過ごせる場所がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ケアの中で、本人様の意向に合わなかったときは、無理に行わず、時間や距離を置きながら臨機応変に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・業務優先になりすぎないように、本人様の意向、体調の状態の観察を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類だけでなく、お化粧、日々の肌のお手入れができるように、必要物品をそろえ、ご本人様ができるように案内している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者様の身体状況にも合わせて、出来る事は職員と一緒にしている。	食事は3食、法人からの配食を利用している。利用者は、テーブル拭きやおしぼりを配る等を行っている。誕生会等のおやつ作りとして、利用者は職員と一緒にチョコケーキやレアチーズケーキ等を作っている。新型コロナウイルス対策のため飛沫防止シートを設置し、食事を摂っている。これまでは職員も利用者と一緒に食事を摂っていたが、新型コロナウイルス対策のため別々に食事をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・日々の食事、水分摂取量の記録を行い、月に1回体重測定を実施。体重の変動や、定期受診時の採血結果をもとに、主治医への報告と相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご自身で、義歯洗浄や歯ブラシが行える方は、出来ることを行って頂き、支援が必要な部分を職員が行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・日々の排泄記録、介護記録を定期的に見直し、排尿、排便のタイミングを予測し、入居者様別に合わせた排泄ケア時間を設定している。	各居室にトイレが設置され、利用者がトイレで排泄できるよう排泄記録表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけを行い支援している。明け方に尿失禁する利用者へは、外もれを防ぐために尿とりパットの使用やリハビリパンツを試すなどして、改善に向けて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・内服薬に頼らないように、日々の適度な運動、睡眠がとれるように支援している。飲み物や補助食品を食物繊維が多い物へ変更したり、トイレへの案内時間を変えている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴の案内に、拒否された時などは、時間を置いたり、日を変更し対応している。	入浴は同性介助を基本とし、週3回のシャワー浴を支援している。脱衣所は温冷風機で調整し、脱衣の際にはバスタオルで体を被う等羞恥心に配慮し、浴室に移動している。入浴後は、居室で髪の毛のセットや化粧など整容を行っている。利用者は、使い慣れた弱酸性のシャンプーや好みのボディソープを使用する等、個々に添った入浴支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・前夜不眠の際や、その時の体調に合わせて、日中の過ごし方をその都度変更し対応している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬情ファイルを作成し、変更があった時は、新しい情報を入れ、いつでも確認しやすいように、薬保管場所の近くに常備している。	「薬のセット準備・服薬確認の手順」や「服薬介助の手順」を作成し、ファイルされている。薬袋の破損による混入や目薬の紛失などが起こっている。誤薬事故の対応と再発防止の検討会議、職員への周知等を記載したマニュアルの整備に期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・お散歩やドライブが好きな方は、外に出る支援を行い、室内で過ごす方が好きな方は、室内で楽しめる活動を行っている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新型コロナウイルス感染予防につき、人出の多い場所への立ち入りは行わず、ドライブスルーや市内のドライブで対応している。	日常的には2階に降りて、玄関先で日光浴をし、施設の周辺を散歩する等している。新型コロナウイルス対策のため、ファーストフード店内に入ることなく、ドライブスルーを楽しんでいる。家族宅の訪問の際にも、車の窓越しに挨拶を交わす等の支援をしている。3階の庭園でお茶会を行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご本人様に財布を持って頂き、おこずかい程度のお金を管理してもらっている。施設内の自動販売機などの利用時に本人様にお金の使用を案内している。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年2月2日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・週に1回程度、事業所からご家族様や友人へ電話をしたり、季節に合わせて手紙を書いてもらっている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースの食堂やリビングには、季節に合わせた壁面作成、季節のお花を飾っている。外の天気などの状況がわかるように、カーテンの閉めるタイミングや換気時に気温を感じてもらえるような工夫をしている。	食堂兼居間は、適切な採光と換気を行っている。食堂のテーブルは、新型コロナウイルス対策のため飛沫防止シートを設置している。壁面の掲示作品は、毎月の行事に合わせ、利用者と職員で制作している。11月は「アマビエ」を制作している。テレビの前のソファでは、一人でのんびり過ごしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・出身地や年齢の近い方を隣同士に座って頂いたり、職員が間に入ってコミュニケーションをとって頂いている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、新品で物をそろえ過ぎず、自宅で使っていたものを持ち込むようにご家族様へ依頼している。身の回りの小物なども、使い慣れた物を使用して頂いている。	各居室には洗面台とトイレ、エアコン、木目調タンス、二重防火カーテンが備え付けられている。利用者は、冷蔵庫やテレビ、ハンガーラック、家族写真など使いなれた品物を持ち込んでいる。位牌を持ち込み、「うちゃとー」を習慣にしている利用者もあり、利用者の手作りぬいぐるみを飾るなどして居心地のよい部屋作りをしている。ナースコールを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・室内は、トイレの位置がわかるように表示したり、開放し工夫している。共有スペースでは、ご自身の部屋のがわかるように名前を大きく表示したり、絵を使用し色でもわかるようにしている。		